

牧師室から (2020 . 11. 29)

今年は、本日 (11月29日) よりアドヴェントに入る。教会暦では新しい一年が始まる。この教会の前方にあるクランツには紫色の蠟燭が4本立っている。私どもの教会では典礼色についてはあまりこだわらないが、アドヴェントの色は紫色である。紫は高貴な色とされており、王様が着る服の色でもあった。かつては巻貝のパープル線の貝紫色というのが使われており、とても貴重であったのだ。イエス様も十字架につけられた時に、紫色あるいは緋色の衣を着せられてユダヤ人の王として揶揄されたことを思い起こす。

また紫色が使われる時期が教会暦ではもう一つある。それは受難節だ。紫色は悔い改めという意味もある。だからアドヴェントは主のご降誕を喜び待つという一方で、主がこの世に来られた時から十字架の道が始まったことを憶えて、厳粛に過ごすべき時期でもある。

今年はコロナ禍にあってクリスマスを迎えることとなると思うが、この試練を厳粛に受け止めつつ、この世のから騒ぎに同調しないように心掛けたいものである。

(鈴木淳一牧師)

